

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 26 年 7 月 3 日 (2014.7.3)

【公開番号】特開 2012-253462 (P2012-253462A)
 【公開日】平成 24 年 12 月 20 日 (2012.12.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2012-054
 【出願番号】特願 2011-122786 (P2011-122786)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 5/347 (2011.01)

H 0 4 N 5/351 (2011.01)

H 0 4 N 5/232 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/335 4 7 0

H 0 4 N 5/335 5 1 0

H 0 4 N 5/232

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 5 月 19 日 (2014.5.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

さらに、システム制御部 3 0 3 は、連写時において、サブ画像を用いた被写体探索を行い、サブ画像中での特定被写体の位置を検出し、検出した特定被写体の位置に対応する焦点検出領域を図 3 に示した複数の焦点検出領域の中から 1 つ（又は 2 以上）選択する。そして、選択した焦点検出領域での合焦位置の演算結果に基づいて、レンズ駆動部 3 1 4 にレンズ駆動信号を送信する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 1】

次にステップ S 4 0 5 では、システム制御部 3 0 3 は、ステップ S 4 0 1 での合焦位置演算の結果およびステップ S 4 0 3 での露出演算の結果に基づいて、レンズ駆動信号および絞り駆動信号をそれぞれレンズ駆動部 3 1 4 および絞り制御部 3 1 3 に送信する。これにより、撮影光学系の合焦状態が得られるとともに、絞り 2 1 4 の開口径が調節される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 4】

なお、第 1 の被写体探索範囲にて特定被写体を検出できない場合には、第 2 段階としてサブ画像中にてマッチングを行う範囲をサブ画像のほぼ全域に相当する広い第 2 の被写体探索範囲に広げる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

続いてステップS421では、システム制御部303は、ステップS420での合焦位置演算の結果およびステップS419での露出演算の結果に基づいて、レンズ駆動信号および絞り駆動信号をそれぞれレンズ駆動部314および絞り制御部313に送信する。これにより、撮影光学系の合焦状態が得られるとともに、絞り214の開口径が調節される。この後は、システム制御部303は、ステップS408に戻る。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

また、上記実施例では、画素加算を行わないときは被写体探索を行い、画素加算を行うときは被写体探索を中止（中断または禁止）する場合について説明した。しかし、画素加算を行うときの被写体探索に対して、中止を含めた何らかの制限を加えればよい。制限には、中止だけでなく、特定の条件の下でのみ被写体探索を許可するというように中止以外の対処も含まれる。例えば、画素加算して生成されたサブ画像中の特定被写体の大きさが、該特定被写体を良好な精度で検出可能な大きさである場合に限り被写体探索を許可してもよい。また、テンプレート画像を画素加算の度合いに応じて縮小して使用することで被写体探索を許可するようにしてもよい。また、被写体探索を特定被写体の色を検出する方法（色追跡）で行うことで被写体探索を許可してもよい。この場合に、テンプレート画像を特定被写体の色で塗りつぶす処理を行ってもよい。